

## 【展示室3】

## “The コレクション展”～美博のとおき♥作品特集 作品リスト

周南市美術博物館

期間:1月4日(土)～3月22日(日)

※展示順 ※各作家の略歴は裏面に紹介しています。

No.	作家名	作品名【よみ方】	点数	制作年	材質	サイズ(縦×横 cm)
1	田中稔之	円の光景(朱の舞)	1	1988(昭和63)年	油彩・キャンバス	130.5×162.2
2	香月泰男	虞美人草【ぐびじんそう】	1	1972(昭和47)年	油彩・キャンバス	39.5×23.0
3	〃	久原山【くばらやま】	1	1961(昭和36)～1962(昭和37)年	油彩・キャンバス	51.7×32.2
4	松田正平	静物(果物)	1	制作年不詳	油彩・キャンバス	23.1×32.1
5	〃	眠る人	1	1963(昭和38)年	油彩・キャンバス	78.8×113.3
6	宮崎進	冬(凍る月)	1	1965(昭和40)年	油彩・キャンバス	90.9×72.7
7	〃	花札	1	1965(昭和40)年	油彩・キャンバス	80.3×116.7
8	〃	赤い花	1	2008(平成20)年	油彩・キャンバス	79.2×58.4
9	大庭学僊	楊貴妃弄鸚鵡図【ようきひおうむをもてあそぶのず】	1	制作年不詳	絹本着色	108.5×71.0
10	岸田劉生	三行書	1	1929(昭和4)年	紙本墨書	146.0×39.4
11	松林桂月	春秋二曲屏風	2	昭和時代	(各)絹本彩色	(各)168.2×172.4
12	笹戸千津子	彫刻家'95	1	1995(平成7)年	ブロンズ	22.5×25.5×36.0
13	小田海僊	碧桐鳳凰図【へきとうほうおうず】	1	制作年不詳	絹本着色	132.5×70.5
14	朝倉南陵	牡丹に蝶図	1	1805(文化2)年	絹本墨画	115.4×49.1
15	〃	四季耕作図	2	1828(文政11)年頃	(各)紙本淡彩	(各)166.7×363.7
16	河村純一郎	もう帰れない	1	1986(昭和61)年	油彩・キャンバス	227.3×181.8
17	宮崎進	漂う鳥	1	1994(平成6)年	ミクストメディア	259.1×388.0
18	澤野文臣	棧橋	1	1956(昭和31)年	紙本彩色	162.5×120.5

計 20 点

## 作家略歴

- 朝倉南陵 (1756-1843) 日本画家。徳山藩浪人阿武六郎左衛門晴俊の長男として生まれる。12歳の時、徳山藩御用絵師である朝倉家の養子となり、家督を相続。17歳の時、萩藩御用絵師雲谷家で絵を学び、19歳で雲谷等徴・等竺に師事。その後、南蘋派の画法を江戸の画家岩井江雲に学ぶ。作品としては山水、花鳥のほか遠石・花岡八幡宮の祭礼絵馬、歴代藩主の肖像などを残している。伊能忠敬が中国地方の地図作りをした際、領内絵図を作成。
- 小田海僊 (1785-1862) 江戸時代後期の画家。周防富海の回船業河内屋に生まれ、下関の紺屋小田家の養子となった。22歳の時、京都に上り四條派の松村呉春の門に入り、頼山陽に教えを受けて南画に転じた。1824(文政7)年、萩藩に絵師として召し出され、1826(文政9)年より再び京で活動した。中国元・明時代の古画を研究し、独自の画風を確立。人物画を得意とする。
- 大庭学僊 (1820-1899) 日本画家。徳山の刀工三好與次兵衛の次男として生まれる。11歳で徳山藩の御用絵師朝倉南陵に師事し、南江と号す。のち京都に出て、小田海僊に師事し学僊と改名。独立し、萩で町絵師として活躍。維新後、東京に移り、南北両派を合わせ独自の画風をつくり、山水・花鳥画を得意とした。第1回内国絵画共進会審査員。明治宮殿杉戸絵の制作にも参加。晩年長府、下関へと移り住み、80歳で逝去。
- 松林桂月 (1876-1963) 萩生まれ。1894(明治27)年野口幽谷に入門。1901(明治34)年同門の松林孝子と結婚。松林姓を名乗る。1907(明治40)年文展に際し、正派同志会に参加。翌年第2回展から連続出品。1919(大正8)年帝国美術院創設。第1回帝展審査員を委嘱される。1950(昭和25)年無名会結成。1958(昭和33)年文化勲章受章。
- 岸田劉生 (1891-1929) 東京生まれ。1908(明治41)年白馬会葵橋研究所に入り黒田清輝に師事。1914(大正3)年北欧ルネサンスの絵画に関心を高め、細密な写実画に転じる。翌年、木村莊八、中川一政らと草土社を主宰。1916(大正5)年肺結核と診断され、荏原郡駒沢村(現東京都世田谷区)に転居療養。1917(大正6)年には神奈川県鶴沼に居を移した。この頃から娘麗子やその友お松の肖像で独自の画境を開き、東洋的な作風となっていた。1923(大正12)年関東大震災で被災し鶴沼から京都に移る。1929(昭和4)年満州へ旅行し、その帰途、徳山で病に倒れ死去、38歳。
- 香月泰男 (1911-1974) 東京美術学校(現・東京芸術大学)卒業後、美術教師として北海道、1938(昭和13)年下関に赴任。翌年第14回国画会国画奨学賞、第3回文展特選。1943(昭和18)年に入隊。戦後捕虜となりシベリアに抑留される。復員後、故郷の三隅町(現・長門市)に戻り、画家として再出発。「シベリヤ・シリーズ」が第1回日本芸術大賞を受賞するなど高く評価された。生涯三隅で絵を描き続けた。
- 松田正平 (1913-2004) 島根県鹿足郡青原村(現・津和野町)生まれ。1935(昭和10)年帝展第二部会に「婦人像」が入選。1937(昭和12)年東京美術学校(現・東京芸術大学)卒業、パリに留学。1939(昭和14)年第二次世界大戦勃発により帰国。1945(昭和20)年宇部市に帰郷、東見初炭鉱で働く。翌年光市へ転居、防長美術家連盟に参加。2002(平成14)年文化庁長官表彰を受ける。
- 澤野文臣 (1914-2005) 日本画家。徳山町(現・周南市)浦山生まれ。1937(昭和12)年京都市立絵画専門学校卒業。同校研究科を経て、堂本印象の画塾、東丘社へ入る。戦後1956(昭和31)年第12回日展で特選白寿賞受賞。翌年、「網船」で連続受賞。1964(昭和39)年日展菊華賞受賞。1969(昭和44)年日展会員、東丘社理事。1968(昭和43)年と1985(昭和60)年には日展審査員に就任。
- 宮崎進 (1922-2018) 洋画家。徳山町(現・周南市)御弓町生まれ。1942(昭和17)年日本美術学校を繰り上げ油絵科卒業、同年入隊、戦後捕虜となりシベリアに抑留される。復員後、上京。1967(昭和42)年第10回安井曾太郎記念賞受賞。1972(昭和47)～74(昭和49)年渡仏、帰国後はアトリエを鎌倉に移す。1995(平成7)年小山敬三賞、1998(平成10)年第48回芸術選奨文部大臣賞、2007(平成19)年旭日小綬章受賞。2009(平成21)年から周南市美術博物館名誉館長をつとめた。
- 田中稔之 (1928-2006) 洋画家。防府市に生まれる。1953(昭和28)年～1957(昭和32)年読売アンデパンダン展。1959(昭和34)年行動美術協会会員。1961(昭和36)年安井賞新人展。1963(昭和38)年～1965(昭和40)年渡欧。1964(昭和39)年、モナコ国際ビエンナーレ展。1980(昭和55)年から1982(昭和57)年県内の壁画、緞帳など制作。1988(昭和63)年、徳山市(現周南市)保健センター壁画「輝く海」制作。
- 笹戸千津子 (1948-) 彫刻家。徳山市(現・周南市)生まれ。東京造形大学美術学科彫刻専攻に入学、佐藤忠良に師事。1973(昭和48)年同大学彫刻研究室修了と同時に佐藤忠良のアトリエで制作を始める。1987(昭和62)年第18回中原悌二郎優秀賞受賞。女性像を多く制作、全国のパブリックスペースに作品が設置されている。林忠彦賞受賞者に贈られるブロンズ像「爽」を制作。
- 河村純一郎 (1948-) 玖珂郡周東町(現・岩国市)生まれ。1970(昭和45)年和光大学人文学部芸術科中退。1981(昭和56)年渡欧。1984(昭和59)年行動展奨励賞、徳山市文化奨励賞。1986(昭和61)年行動展F記念賞、安井賞入選。1991(平成3)年山口県芸術文化振興奨励賞。1997(平成9)年行動展田中忠雄賞。2007(平成19)年山口県文化功労賞。行動美術協会会員。